

# 算数授業のめあてとポイント 令和8年1月号 啓林館対応


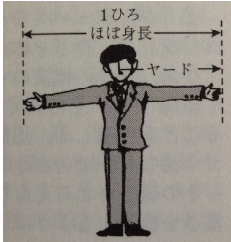
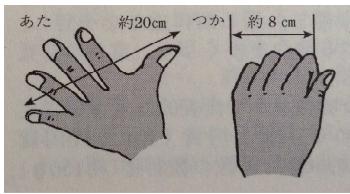
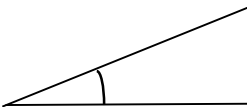
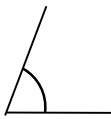
☆思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、

児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。

(K…啓林館, G…学校図書, T…東京書籍)

※「単元のめあて」枠内の漢字に、ルビをふっている箇所があります。ひらがなと漢字の どちらを使うかは、学習進度などを勘案して 指導者で判断して下さい。

学年	単 元	単元のめあて と 授業のポイント									
1 年	2巻 <sup>⑩</sup> 大きい かず  同様単元 G 1月 <sup>⑮</sup> T 1月 <sup>⑭</sup>	<div>◎単元のめあて(板書例)</div> <div>10 が なんともある <sup>おお</sup> 大きい<sup>かず</sup>かズの、かぞえかた・かきかた・くらべかたを かんがえて、はなそう。</div> <div>◎授業のポイント</div> <div>・数の表し方については、1位数の段階で1巻p.39のように「0」を理解し、そこから十進位取り記数法に基づいて2位数の表し方を理解することを提案している。そして、9月号で既に「へや」を「くらい」と呼ぶことを知らせている。</div> <div>本単元では、120 程度までの3位数について、数の構成や表し方を指導する。</div> <div>〈学習1〉</div> <div>・10の「まとまり」で 数えたり表したりする良さが、感じられるようにする。</div> <div>導入「棒取りゲーム～どちらがたくさんとったでしょう～」</div> <div>・2人組でサイコロの目の数だけ棒を取る。これを何回も繰り返す。</div> <div>・数が多くバラバラで、すぐには数えられないので</div> <div>『誰にも分かるようにして、学級チャンピオンを決める』 等の数学的活動をする。</div> <div>場の設定(10のまとまりを作る必要感)</div> <div>・誰かに結果を報告しなければならない。(表記する必要感)</div> <div>〈学習2〉</div> <div>・数学的な考え方を大切にして、100の表記の仕方を考えるようにする。</div> <div>1が10集まると1つ左の部屋(十の位)に1繰り上がる。</div> <div>↓ 同じように考えて</div> <div>10が10集まると1つ左の部屋(百の位)に1繰り上がる。</div> <div>百の位の名称は知らせる。</div> <div><table><tr><th>ひゃく 百のくらい</th><th>じゅう 十のくらい</th><th>いち 一のくらい</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td>1</td><td>3</td></tr></table></div> <div>・p.108～109では、100 までの数の表記を基に、120 程度までの3位数を 読んだり書いたり比べたりできるようにする。</div>	ひゃく 百のくらい	じゅう 十のくらい	いち 一のくらい				1	1	3
ひゃく 百のくらい	じゅう 十のくらい	いち 一のくらい									
1	1	3									
2 年	下巻 <sup>⑬</sup> かけ算の きまり  同様単元 G11 月 <sup>⑭</sup> T11 月 <sup>⑫</sup>	<div>◎単元のめあて(板書例)</div> <div>九九のひょうをしらべて 九九のきまりを見つけたり、九九のひょうを<sup>ひろ</sup>広げて <sup>けいさん</sup>計算のしかたを <sup>かんが</sup>考えたりして、<sup>めい</sup>せつ明しよう。</div> <div>◎授業のポイント</div> <div>・「○のだんの九九では、かける数が1ずつ増えると 答えは○ずつ増える。」のように、 具体的なきまりは 児童にとっては容易である。しかし、</div>									

		<p>「かけ算では、かける数が1ずつ増えると 答えはかけられる数ずつ増える。」のように、一般的なきまりは 児童にとって抵抗がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算(2)までの 具体的なきまりを見つける学習を基に、本単元では 一般的なきまりを見つける学習に進んでいく。</li> <li>・p.69では、<math>2 \times 5 = 5 \times 2</math> 図に戻して意味の違いを考える。   (ねらい) ・柔軟な思考力を養う。  ・4年の面積の学習に役立つ。</li> <li>・p.70の答えが12になるかけ算では、  (ねらい) <ul style="list-style-type: none"> <li>・数の多様な見方を養う。<math>(2 \times 6, 3 \times 4, 4 \times 3, 6 \times 2)</math></li> <li>・3年のわり算、5年の約数の学習に役立つ。</li> </ul> </li> </ul>
	下巻⑭ 100cmを こえる 長さ  同様単元 G1月⑮ T1月⑭	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 100cm をこえる<sup>なが</sup>長さの <sup>かた</sup>はかり<sup>けいさん</sup>方や<sup>かんが</sup>計算<sup>めい</sup>のしかたを<sup>めい</sup>考<sup>めい</sup>えて、せつ明<sup>めい</sup>しよう。 </div> <p>※上巻④「長さ」で測った長さを大きく超える長さを 測ったり計算したりすることから、単元のめあて(上に記載)が つかめるようにする。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.77の1mの単位の導入では、「30cm ものさしで測ると 面倒な場面」を設定する。  教室の床(縦、横)の長さを測る等の数学的活動をする。 →長い単位の必要感が生まれる</li> <li>・p.78では、もっと長い単位がいる(児童に考えてほしいこと)、単位(1m)の導入(知らせること)</li> <li>・p.79では、<math>1\text{m}=100\text{cm}</math> 10cm のテープを10本並べたり、自分の体のどこからどこまでが1mになるかを調べたりして、量感がもてるようにする。  (1m=10cm の間違いが時々見られる。)  自分の「ひろ」「あた」「つか」を測っておくと、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位換算の誤りが少なくなる。</li> <li>・概測の力が高まる。</li> </ul> </li> <li>・p.81では、1つの単位に直して計算したり 単位ごとに計算したり できるようにする。  (例) <math>2\text{m}40\text{cm} + 50\text{cm}</math> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <math>\rightarrow 240\text{cm} + 50\text{cm} = 290\text{cm} = 2\text{m}90\text{cm}</math>  <math>\rightarrow 2\text{m} + (40\text{cm} + 50\text{cm}) = 2\text{m}90\text{cm}</math> </div> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
3 年	下巻⑰ 三角形  同様単元 G11月⑬ T 3月⑱	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 三角形を なかま分けしたり かいたり 作ったり しきつめたりして、二等辺<sup>どうへん</sup>三角形や 正三角形の ひみつを見つけて、せつ明しよう。 </div> <p>※三角形の弁別(下に記載)の後に、単元のめあて(上に記載)が つかめるようにする。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図形学習の段階(○図形を弁別し、図形の概念を理解する、○図形を構成(作図)する。○図形の性質を理解する。○他の図形との関連を理解する。)を踏まえて、児童の意識がつながるような単元構成を考える。</li> <li>・仲間分けの観点を話し合う中で、弁別の観点を児童自身が取り出せるようにする。そして、仲間分けの後に、単元のめあて(上に記載)が つかめるようにする。</li> <li>・角の大小お辺の長さではなく、角をつくる2つの辺の開き具合で比較することが理解できるようにする。また、二等辺三角形・正三角形の角について、性質に気付くようにする。  (問題例) 「どちらの角が大きいですか。」  (ア)  (イ) </li> <li>・p.65では、しきつめることで、三角形と四角形など他の図形との関連に気付くようにする。</li> </ul>

	下巻⑮ 小数  同様単元 G11 月⑫ T11 月⑬	◎単元のめあて(板書例) <div>1より小さい数の 分数とはべつの表<sup>あらわ</sup>し方・しくみ・くらべ方, たし算ひき算のしかたを 考えて, せつ明しよう。</div> ◎授業のポイント <ul style="list-style-type: none"><li>・p.69では, 分数1/10を, 小数0.1で表す表し方を知らせる。そして0.1を新たな単位として, 十進位取り記数法の考えを1より小さい数に広げることで, 0.1 0.2 1.3のような小数を書いたり読んだりできるようにする。</li><li>・p.72では, 2.3のような小数の各位が何個ずつあるとか0.1が何個で2.3になるという小数の仕組みを, 十進位取り記数法に基づいて書いたり読んだりできるようにする。</li><li>・p.74では, 小数と分数を数直線に表して大きさを比べ 不等号を用いて大小関係が示せるようにする。</li><li>・p.75～78では, 整数の計算と同じように, 位をそろえて計算できるようにする。</li></ul> 間違いが起きやすい例 <div><div><div>○ 7</div><div>+ 5.5</div></div><div><div>× 7</div><div>+ 5.5</div></div></div> 【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 p.150～151, p.190～191 参照】 【算数教育指導用語辞典 p.179～182 参照】																
4 年	下巻⑬ 調べ方と 整理の しかた  見方 考え方を 深めよう  同様単元 G 6月⑦ T 4月②	◎単元のめあて(板書例) <div>2つのことがらについて調べるときの, 整理のしかたを考えたり, 表を読み取ったりして, せつ明しよう。</div> ◎授業のポイント <ul style="list-style-type: none"><li>・目的に応じて 身近なデータを集め, 2つの観点から分類整理した2次元の表に表して 分析できるようにする。 [例]「けがの少ない学校にしよう!」←目的 どこで どんな けがが多いかを調べよう。(観点を2つにする。)</li></ul> <div><div>①表を作ること → ②表を読み取ること</div><div>「〇〇の場所では, □□のけがが多い。それは, △△のためではないか。」</div></div> <table><tr><td></td><td>みかん</td><td>バナナ</td><td>合計</td></tr><tr><td>東町</td><td>17</td><td></td><td>25</td></tr><tr><td>西町</td><td></td><td></td><td>23</td></tr><tr><td>合計</td><td>30</td><td>18</td><td>48</td></tr></table> <ul style="list-style-type: none"><li>・p.69の表が難しい。表の意味を読み取って,以下の2点が理解できるようにする。<ul style="list-style-type: none"><li>①各項目の数を計算するだけでなく, 「17」について, 「東町でみかんを選んだ人」のような項目の意味。</li><li>②東町と西町のハイキングに行った人の合計と みかんバナナを選んだ人の合計は どちらも48人であること等, 調べたことを 落ちや重なりなく整理する上での 合計の大切さ。</li></ul></li></ul>		みかん	バナナ	合計	東町	17		25	西町			23	合計	30	18	48
	みかん	バナナ	合計															
東町	17		25															
西町			23															
合計	30	18	48															
	下巻⑭ 分数  同様単元 G 1月⑰ T12 月⑩	◎単元のめあて(板書例) <div>1より大きい分数の 表し方・しくみ・くらべ方・たし算ひき算のしかたを 考えて, せつ明しよう。</div> ◎授業のポイント <ul style="list-style-type: none"><li>・p.71～74では, 1を等分することによって, 真分数・仮分数ができることや 整数と真分数の和から帯分数ができることが理解できるようにする。5/2は1/2が5こでできているという分数の仕組みや分母の同じ 3/2 と 7/2 は 1/2の個数で大きさを比べることが理解できるようにする。</li><li>・p.75～76の 和が1より大きくなる同分母分数の加減の計算は, 単位分数を基にすれば 和が1以下の場合と同じように 整数で計算できることが理解できるようにする。</li><li>・p.77では, 1/2=2/4のように, 等しい分数を複数の仕方で数直線に表示する数学的活動を行う。その際, 形式的な操作で等しい分数を見つけるのではなく 単位が半分になれば個数が2倍になる等の単位と個数の考えから, 等しい分数が理解できることが大切である。</li></ul>																

5 年	下巻⑭ 円と 正多角形	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div>円を使って 辺の長さが全て等しい多角形をかくて 特ちょうを見つけたり、 円の周(まわり)と直径の関係を調べて きまりを見つけたりして、説明しよう。</div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.194～197 では、円を基に正多角形をかく活動を通して、正多角形の性質が理解できるようにする。(円の中心をn等分すれば、n個の二等辺三角形ができる。)</li> <li>・p.198～203 では、円周の長さや直径の長さを測定し、円周の直径に対する割合を帰納的に考えることにより、「円周÷直径＝円周率(3.14)」が実感できるようにする。そして、「円周÷直径＝円周率」より「円周＝直径×円周率」を導いて、円周の長さが求められるようにする。また、直径と円周が比例関係になることが、理解できるようにする。</li> </ul>
	⑮ 割合の グラフ	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div>割合を表すグラフのかき方・読み方を調べて 特ちょうを考えたり 割合を表すグラフを使った問題の解き方を考えたりして、説明しよう。</div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.206～209 の 帯グラフや円グラフでは、全体と部分の割合や 部分と部分の割合が 理解できるようにする。</li> <li>・p.210～211 の 複数の帯グラフ(円グラフ)を比べる場合は、割合の変化だけでなく 全体の数を記入することで、割合が増えても(減っても)全体の数が減れば(増えれば) 部分の数が減ったり(増えたり)、割合が同じでも全体の数が増えれば(減れば) 部分の数が増えたり(減ったり)することが、理解できるようにする。</li> <li>・p.212～213 の 統計的な問題解決の場面では、①問題を設定する ②計画を立てる ③データを集めて分類整理する ④グラフや表に表して分析する ⑤問題の結論をまとめる。この①～⑤の手順を経験することが、大切である。</li> </ul>
6 年	⑬ およその 形と 大きさ	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div>形を およそでとらえ、およその形の 面積や体積の求め方を考えて、説明しよう。</div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元では、およその形を捉えたり 概測し求積したりする数学的活動を通して、算数のよさが感じられるようにする。</li> <li>(例)校庭・運動場・学区 およそ どんな形と見たり およその大きさ(長さ・面積・体積)を考えたりすることが 大切である。</li> </ul>
	見方 考え方を 深めよう (3)	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div>問題文の意味を 図を使って整理し、解き方を考えて、説明しよう。</div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を 1 と見て、部分の割合の和や差に着目して 解決する問題である。難しいので、絵・図・線分図を用いたり描いたりしながら 解決できるようにする。</li> </ul>
	すごろく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件に合わせて 順序よく考えるようにする。</li> </ul>
	わくわく SDGs	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の事象を 算数の問題として捉えて、解決できるようにする。</li> </ul>

〈お知らせとお願い〉

「算数授業のめあてとポイント」「算数教育 情報コーナー」等を ご覧いただき  
日々の実践に役立てて下さい。

なお、これらについての ご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は、  
seiden\_atmark\_po.harenet.ne.jp

(スパム対策です。お手数ですが、\_atmark\_ を@に直してください。)